知多半島ケーブルネットワークコミュニティ誌［ココナッツクラブ］

COCONUTS CLUB

February 2022 2

再生！2022 ～常滑リニューアル施設ガイド

再生！2022

常滑リニューアル施設ガイド

前号に紹介したとこなめ陶の森資料館以外にも、
昨年の秋から冬にかけていくつかの施設がリニューアルオープンしている。
2022年にますます注目を集めるに違いないそれらの施設をまとめて紹介する。

登窯広場展示工房館
10:00〜16:00
水曜休
入館無料
TEL:0569-35-0292

散策の楽しみが増える
登窯広場展示工房館

ここ二年、コロナ禍で沈滞ムードが漂っていた常滑の観光地にも、ようやく人の動きが戻ってきたようだ。迎え入れる側も、世の中が動き出す時を見据えながら様々な事業を着々と進めてきた。そして今、なかなかの充実ぶりを見せてきた。

ざっと挙げてみよう。コロナ禍の前だが令和元年(二〇一九)十月にINAXライブミュージアムの「窯のある広場・資料館」がリニューアル。令和二年(二〇二〇)四月に「土管坂休憩所」がリニューアル。その年の夏前には動画配信サービスNetflixで常滑を舞台にしたアニメーション作品「泣きたい私は猫をかぶる」の配信が始まり、ロケ地探訪マップが制作される。昨年十月になると、本誌前号でも詳しく紹介したように、とこなめ陶の森資料館がリニューアル。そして十一月二十八日に、やきもの散歩道Aコース沿いにある「登窯広場展示工房館」が新装なって再スタートを切った。

登窯広場は平成七年(一九九五)、やきもの散歩道の散策拠点として誕生した。多目的広場と展示工房館が整備され、「泣きたい私は猫をかぶる」の印象的なシーンで登場したモニュメントと陶壁もその時に作られた。展示工房館は広場の一角にあり、名前のとおり展示施設と体験工房が一体化した施設。大正十年(一九二一)頃から昭和五十五年(一九八〇)まで稼働していた煉瓦造りの両面焚倒焔式角窯に上屋を設置して保存・展示しつつ、絵付け体験や学習・交流の場として活用できる工房が設けられている。

オープンから長らく市の直営施設だったが、開館から二十六年を経て、その在り方を見直す時期が来ていた。そこでこのほど、指定管理者制度によって民間に運営を委託することになった。企画を手掛けるのは、名古屋市を拠点に活動する建築家・市原正人さん率いる一般社団法人ボンド。市原さんは、名古屋市西区の円頓寺商店街などのまちづくり活動などに長く携わっており、これまでのノウハウを活かしてこの館の〝再生〟を図ろうとしている。建物自体がさほど大きくないので大規模な改修とまではいかないが、館内のデザインやレイアウトを一新し、ぐっと洗練された空間になった。

以前は、館内に入るとすぐに巨大な窯が見えたが、手前に白い間仕切りが設置されており、入ってもすぐには見えないようになっている。その間仕切りには窯口と同じアーチ型のゲートがあり、それをくぐると風格ある窯が突然前に現れる趣向で、初めての来館者は驚くのではないだろうか。一階の物販スペースだった部分はギャラリーになり、様々なジャンルのアート展を企画しているという。

二階の半分は陶芸家の作品などを扱うショップ、もう半分は従来と同じく体験工房として使用する。担当の荒木萌さんによると、今後は絵付け以外の体験コンテンツも増やしていく計画とか。「登窯広場も私たちが運用の企画を任されているので、今後はそちらもうまく使いたいですね。また、私たちは廻船問屋瀧田家でも、飲食店やワークショップの場などに活用するプロジェクトにも取り組んでおり、トータルで常滑をアピールしていけたらと考えています」。

やきもの散歩道をさらに楽しくしてくれそうなボンドの活動に、これから要注目である。

レース場がパークになる
ボートレースとこなめ

続いて紹介するのはボートレースとこなめ。老朽化著しかった旧スタンド西側に、収容人数一七〇〇人、三階建て(一部四階建て)の新スタンドが十一月六日にオープンした。令和元年(二〇一九)にボートレース事業局が策定した「第六次経営合理化計画」では「地域に開かれたレース場を目指す」ことを柱の一つとして謳(うた)っており、それを具現化した施設に生まれ変わった。

偉観を誇っていたこれまでのメインスタンドとは対照的に、新スタンドは意外とコンパクトである。現在の来場者数に応じた効率的な施設運用と、ファンの利用しやすさを考慮してこの規模になったという。内装にはやわらかく明るい色調がふんだんに採り入れられ、有料観覧席、無料観覧席、発売所、フードコート、カフェと、どこもゆったりした造りになっている。また、二階の奥には観戦フロアから独立した「ROKU」という部屋が用意されている。こちらは団体利用できる特別観覧施設であると同時に、事前申し込みは必要になるが、会合やサークル活動などに利用できる多目的施設でもある。このほか、一般の催しにも貸し出す「トコタンホール」、授乳室や小児用トイレを備えたファミリールームもある。

そして今回は、これまでのボートレース場のイメージを覆す新たなエリアも同時にオープンした。新スタンドに隣接する「BOAT KIDS PARK モーヴィとこなめ」「コミュニティパーク グルーンとこなめ」だ。この二つのパークについては前号のpiggyback CAFE欄でも紹介したが、モーヴィは有料施設で親子連れが遊べるエリア、グルーンは芝生広場やゲームフィールドなどを備えた入場無料の交流エリアとなっている。従来のメインスタンド東側の巨大招き猫の周囲にあった昭和テイストの小公園とは対照的に〝令和の最新型公園〟といった装いである。

モーヴィは屋内ゾーンと屋外ゾーンに分かれ、どちらにも多彩な最新遊具が置かれており、子供の年齢に応じてさまざまな遊びが楽しめるようになっている。中でも、六〜十二歳を対象とした屋外の「チャレンジエリア」には、滑り台とジャングルジムを融合したような高さ九メートルのタワー遊具や、現代アートのような視覚的にも面白い遊具があり、広々としたレース水面との取り合わせがなかなか斬新だ。園内には「プレイリーダー」と呼ばれるサポートスタッフが常駐しており、子供たちに遊びを教えつつ安全を見守っているのも心強い。

なぜ、このような施設がボートレース場に設けられたのだろうか。ボートレース事業局によると、業界全体で推進している「ボートレースパーク化(複合施設化)」のひとつと

BOAT KIDS PARK モーヴィとこなめ
6か月～12歳の子供と保護者が利用可能
平日は160分入替2部制、土日は80分入替4部制
大人・子供とも300円（ボートレース入場者は200円）
TEL:0569-34-9932

コミュニティパーク グルーンとこなめ
8:30～12レース終了時
年中無休
入園無料
TEL:0569-34-9932

さまざまな世代の人が、
それぞれの楽しみ方で過ごせる場所になる。

という。この取り組みは、幅広い世代が気軽に訪れることのできる場として、施設を整備・拡充しようというもの。特に「レース場のある地域の親子に身近な場所として親しんでほしい」という思いがあり、輸入遊具と遊び場のプロデュースを専門とする株式会社ボーネルンドとボートレース振興会が協働して「モーヴィ」が企画された。パーク化を象徴する施設として全国で展開されており、これまで戸田、下関、浜名湖、芦屋、からつの五場に設置されている。

近年、子育て施策に力を入れている常滑市もこれに共鳴し、スタンド建て替えのタイミングに合わせて整備することになった。ちなみに、レース水面に面して設置したのは常滑が初めて。また、グルーンは全国初の施設である。

取材したのはオープンから一か月を過ぎた頃だったが、モーヴィのスタッフによると、すでに常連の親子連れが何組もいるとか。また、グルーンの認知度も広まり、学生や若者もよく利用していると聞く。これから、地域の交流の場として幅広い世代に活用されることを期待したい。

飛行機の世界がより身近に
セントレア・フライトパーク

最後にセントレアに渡ってみよう。セントレアでは、第2ターミナルに隣接する複合商業施設「フライト・オブ・ドリームズ」内にある学びとアミューズメントのエリア「フライトパーク」が、十二月二十三日にリニューアルオープンした。フライト・オブ・ドリームズとフライトパークは平成三十年（二〇一八）の開業からまだ三年しか経っておらず、早々のリニューアルとなった。

フライト・オブ・ドリームズはボーイング787の初号機が一機まるごと展示されているのが目玉で、一階の有料展示エリアを見下ろすように、二・三階にボーイング社の創業地のシアトルをテーマにした商業施設が配置された。開港十五年目を迎えたセントレアの新スポットとして注目を集め、順調に一年が過ぎたところに、新型コロナウイルスが影を落とす。

まず、一階の展示エリアが一昨年の二月に休館し、四月からは商業施設も休館せざるを得なくなった。最初の緊急事態宣言解除後の六月から営業を再開したものの、飛行機を利用する人がほとんどいないような状況の中、同じ形態で運営を継続するのは難しいと中部国際空港株式会社は判断する。そこで、昨年四月にフライトパークをいったんクローズし、アフターコロナを見据えた展示や利用の仕組みを再構築することにしたのである。

最大の変更点は、有料だったフライトパークを入場無料にし、子供が楽しめる遊具を充実させたことだ。これまでは、デジタルコンテンツを中心に演出のトーンがどちらかというと大人向けで、それはそれでファンも多かったのだが、再開後は館内の照明も明るくなり、小さな子供がより気軽に立ち寄れるようになった。遊具エリアは「クラウドパーク」と名付けられ、中央には空に浮かんだ雲をイメージさせるネッ

ト遊具「もくもくクラウド」（この遊具は有料）を配置。手掛けたのは、富山県に本社を置く遊具メーカー、株式会社オカベで、担当者によると、もくもくクラウドの二層式トランポリンは世界初だとか。

もちろんこれまでどおり、迫力満点のボーイング787は健在だ。リニューアルにあたって、下から照明を当て機体の細部まで観察できるようにし、コックピットも引き続き間近で見学できる。飛行機の仕組み、787の特徴、セントレアの概要などの解説もわかりやすい。

遊びの場と学びの場が両立した新生フライトパークは、幅広い世代に受け入れられる施設になったと言えるだろう。

フライトパーク
10:00〜17:00
年中無休
入場無料（フライトシミュレーターと大型ネット遊具は有料）

時代に応じて変化する常滑は、
楽しみがまだまだ増えてゆく。

〈取材協力〉一般社団法人ボンド／常滑市ボートレース事業局／中部国際空港株式会社